

# 事業概要

事業No.	R5新規
-------	------

年度 令和5年度 担当課 文化課

事業名称	令和5年度船橋市出張美術展「どこかで見た不思議な風景」			
主催者	文化課／郷土資料館			
開催経緯等	平成29年度の船橋小学校での開催を機に、市内の公民館や学校、文化施設を会場とし、市所蔵の美術品を紹介する展覧会「船橋市出張美術展」を実施している。			
事業趣旨 (目的)	令和5年度出張美術展は「どこかで見た不思議な風景」をテーマに、市所蔵作品の中から約30点の風景画を紹介。また、会場である船橋市郷土資料館との連携企画として、美術作品にまつわる資料を併せて展示する。気軽に身近で美術鑑賞ができる機会の創出を目指す。			
第2次基本方針における事業の位置付け 3段階評価	気づき始まる	3	該当施策 (選択)	基本目標 I 気づき始まる施策① 文化・芸術に関する情報を効果的に届ける仕組みの構築
	学び楽しむ	1		
	育みつながる	1		
	活かし伝える	2		
参考指標	来場者数	指標値	1,000人	
指標値設定の理由	出張美術展自体の事業成果を測るため。			
事業内容	<p>会期: 令和5年5月27日(土)～6月11日(日)</p> <p>会場: 船橋市郷土資料館 3階第2展示室</p> <p>費用: 入場無料</p> <p>主催: 文化課／郷土資料館</p> <p>展示作品: 市所蔵美術作品約30点(油彩画、切り絵他)、関連資料(郷土資料館蔵)</p> <p>出品作家: 椿貞雄(1896～1957)、井出文蔵(1928～)、熊谷文利(1920～2001)、柴宮忠徳(1938～2007)他</p>			
予算額	市予算	191,400円		
	国・県等補助等(名称: )	0円		
	協賛・他県等負担金	0円		
	その他(入場料収入等)	0円		
	計	191,400円		

令和五年度船橋市出張美術展「国際博物館の日」記念事業

びんがぶ見た  
不思議な風景

郷土資料館で船橋のアーティストを観よう

2023  
5.27(土)  
→ 6.11(日)



船橋市郷土資料館

9:00~17:00(月曜休館) 最終入場16:30

入場無料

主催:船橋市教育委員会文化課・郷土資料館

令和五年度船橋市出張美術展  
「国際博物館の日」記念事業

# どこかで見 た不思議な風景

2023  
5.27(土)  
→6.11(日)

船橋市出張美術展は、市内の公民館、学校、文化施設を会場に市所蔵の美術作品を紹介する展覧会です。本市では約600点の美術品を所蔵しています。その多くは船橋市に住み活動した「ゆかりの美術家」の作品です。

このたびの出張美術展では、「どこかで見た不思議な風景」をテーマに、市所蔵作品から約30点をご紹介します。洋画家・<sup>つばきさだお</sup>椿貞雄(1896-1957)による写実的な風景画や、切り絵作家・<sup>いいてぶんぞう</sup>井出文蔵(1928-)の懐かしい海の景色、さらに<sup>しばみやただのり</sup>柴宮忠徳(1938-2007)や<sup>くまがいぶんり</sup>熊谷文利(1920-2001)による夢の中で見たことがあるような心象風景まで、様々な「風景」を一度に味わえる展覧会です。

さらに、会場である船橋市郷土資料館との連携企画として、美術作品にまつわる資料を併せて展示します。これらの資料は美術作品の謎を紐解く鍵となるかもしれません。

身近な場所で、地域の文化・歴史に触れて、美術鑑賞を楽しんでみませんか。



チラシ表面：  
柴宮忠徳《樹の時》1982(昭和57)年、個人蔵

チラシ裏面 左上から：  
1.渡辺正太郎《幼稚園》制作年不詳、船橋市蔵/2.井出文蔵《晚帰》1988(昭和63)年、船橋市蔵/3.熊谷文利《Kの食卓》1976(昭和51)年、船橋市蔵/4.椿貞雄《桜島初雪(雪の桜島)》1956(昭和31)年、船橋市蔵

## 関連イベント

対話型ギャラリーツアー

日時：6月9日(金)14:00~(30分程度)

会場：船橋市郷土資料館 3階第2展示室

案内：益子実華(船橋市教育委員会文化課学芸員)

参加費：無料

定員：20名(先着順)申込不要。当日会場にお集まりください。

## お問合せ / 船橋市教育委員会文化課

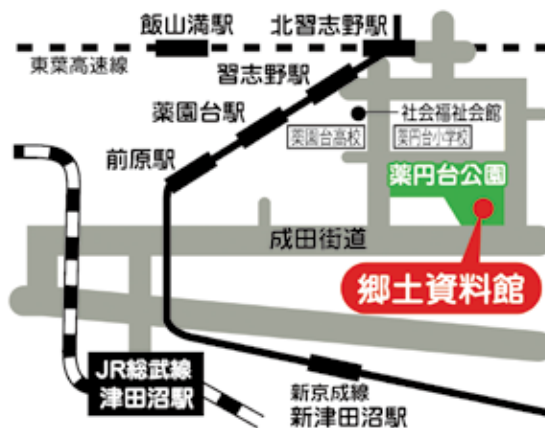
〒273-8501 千葉県船橋市湊町2-10-25

Tel. 047-436-2894 / Fax. 047-436-2884



詳細はこちら! 船橋市バーチャル美術館

## 交通のご案内



船橋市郷土資料館 3階第2展示室

〒274-0077 千葉県船橋市薬円台4-25-19

Tel. 047-465-9680

新京成線習志野駅から徒歩約10分、JR津田沼駅北口から船橋新京成バス「北習志野駅」「高津団地東口」「八千代緑が丘駅」「習志野車庫」「自衛隊前」行き、または、ちばレインボーバス「八千代緑が丘駅」「船尾車庫」「千葉ニュータウン中央駅」行きに乗り、「郷土資料館」下車徒歩約2分

## 令和5年度出張美術展 実施報告

### 【報告】

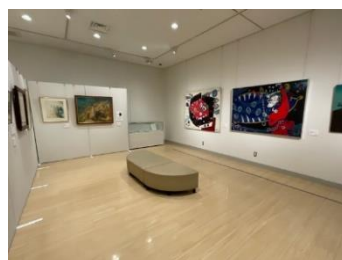
令和5年5月から6月にかけて、船橋市内の公民館、学校、文化施設に市所蔵作品を展示する「出張美術展」を郷土資料館で開催した。市所蔵作品に、ご遺族など市内の方からお借りした作品を加え、23点の美術作品を展示。「どこかで見た不思議な風景」と副題をつけ、“風景”という大きなテーマで展示を構成し、様々な作家やジャンルの美術作品を伝える展覧会とした。また、郷土資料館との共催事業として、美術作品に関連する資料館所蔵の写真等資料を併せて展示することで、作品へ多角的にアプローチできるような試みとなった。

展覧会の学校連携事業として、施設の近隣にある菓田台南小学校と菓田台小学校の5年生を対象に見学会を実施した。同校の児童たちは事前に、学内にて「ふなばしアートカード」を使ったグループワークを行い、その一週間後、展覧会場に来訪。子供たちは、クラスごと2グループに分かれ、2階の郷土資料の展示室と3階の企画展示室で開催している出張美術展を見学し、「この前アートカードで見た絵だ!」と興味深そうに展示室を見まわしていた。会場では、学芸員がファシリテーターとなり、熊谷文利《祈祷師群団(疑惑)》と井出文蔵《晩帰》の対話型鑑賞を行った。子供たちは、アートカードとはサイズや質感も違う「本物の絵」を見て、様々な感想を述べていた。二宮中学校の美術部も見学を訪れ、小学生と同様、グループに分かれて対話型鑑賞を行った。中学生の発言には、環境問題について述べたものもあり、成長段階の違いで、作品の見方が異なっていることを改めて感じた。

このたびの出張美術展は郷土資料館での初めての開催であったが、展覧会を行う「場」について考える機会となった。同時期に開催していたミニ展示企画「津田沼 PARCO の思い出」を目指してきた来場者や、資料展示に関するクイズラリーをしに来た子供たちなどにも、企画展示室で開催していた出張美術展に足を運んでもらい、新しい層に「船橋の美術」を伝えることができた。また、施設が公園に隣接していることもあり、散歩等のついでに資料館を訪れる人たちの姿が多く見受けられたことが印象的であった。第2次船橋市文化振興基本方針の重点プログラム「アートでつながるまち ふなばし」で掲げているように、美術においても、様々な施設と連携し、身近な場所で、年齢問わず、気軽に鑑賞を楽しめる機会を、今後もつくっていききたいと思う。

\*ふなばしアートカード・・・市所蔵作品30点をカードにしたオリジナルの美術教材

(本市学芸員 益子実華)



展示風景

## 令和5年度出張美術展「どこかで見た不思議な風景」

会期：令和5年5月27日（土）～6月11日（日）

会場：船橋市郷土資料館

入場：無料

- 展示作品：別紙目録参照
- 会場配布物：出品作品リスト
- 来場者数：1334名  
（一般、薬円台南小 64名、薬円台小 106名、二宮中美術部 26名、教員 12名）
- アンケート回収：66枚
- アンケート結果：別紙
- 広報：広報ふなばし（6月1日号）、月刊ぐるっと千葉6月号、千葉日報（6月6日号）  
船橋よみうり（6月10日号）

### 関連イベント

- 担当学芸員による対話型ギャラリーツアー  
日時：6月9日（金）午後2時～午後2時半  
講師：益子実華（文化課学芸員）／会場：郷土資料館 第二展示室  
対象：一般（事前予約なし、先着順）  
参加費：無料／参加者数：23名
- \* 大人向けの対話型鑑賞を実施

### 学校連携事業

- 展覧会見学会（薬円台南小学校）  
日時：6月8日（木）1～3時間目（45分授業）  
対象：5年生 計2クラス（計64名）  
会場：郷土資料館第二展示室  
内容：美術担当学芸員による対話型鑑賞、郷土資料館展示室見学
- 展覧会見学会（薬円台小学校）  
日時：6月9日（金）1～4時間目（45分授業）  
対象：5年生 計3クラス（計106名）  
会場：郷土資料館第二展示室  
内容：美術担当学芸員による対話型鑑賞、郷土資料館展示室見学
- 展覧会見学会（二宮中学校美術部）  
日時：6月10日（土）午前中  
対象：美術部（1～3年生）（計26名）  
会場：郷土資料館第二展示室  
内容：美術担当学芸員による対話型鑑賞、郷土資料館展示室見学

出張美術展見学会(薬円台南小学校・薬円台小学校)【6月8日(木)・9日(金)】



対話型ギャラリーツアー【6月9日(金)】



二宮中学校美術部見学会【6月10日(土)】

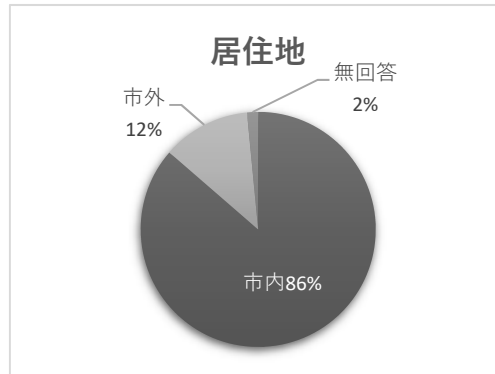


# 令和5年度船橋市出張美術展「どこかで見た不思議な風景」アンケート集計

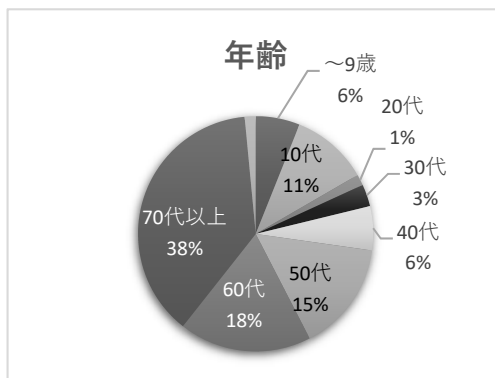
来場者数 1334名  
アンケート回答数 66名(4.9%)

## アンケート報告

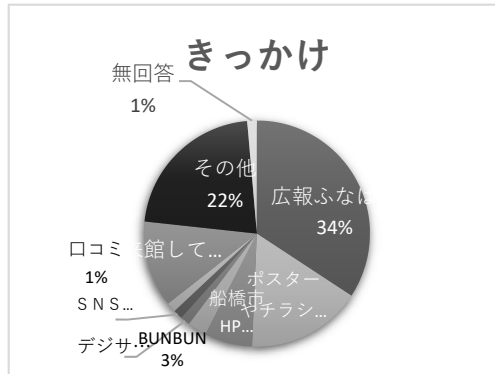
居住地	人数	割合
市内	57	86%
市外	8	12%
無回答	1	2%
合計	66	100%



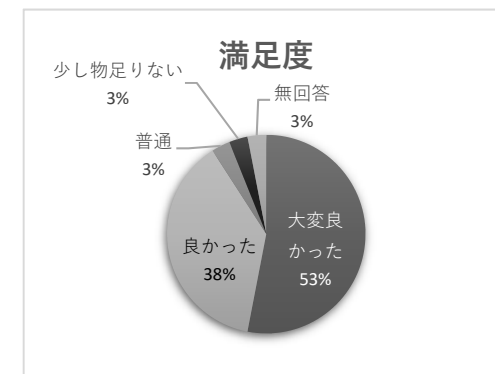
年齢	人数	割合
～9歳	4	6%
10代	7	11%
20代	1	2%
30代	2	3%
40代	4	6%
50代	10	15%
60代	12	18%
70代以上	25	38%
無回答	1	2%
合計	66	100%



きっかけ	人数	割合
広報ふなばし	25	34%
ポスターやチラシ	12	16%
船橋市HP	5	7%
ぐるっと千葉	0	0%
バーチャル美術館	0	0%
BUNBUN	2	3%
デジサイ	1	1%
SNS	1	1%
口コミ	1	1%
来館して	9	12%
その他	16	22%
無回答	1	1%
合計	73	100%



満足度	人数	割合
大変良かった	35	53%
良かった	25	38%
普通	2	3%
少し物足りない	2	3%
つまらなかった	0	0%
無回答	2	3%
合計	66	100%



# 事業概要

事業No.	8		
年度	令和5年度		担当課 文化課
事業名称	第10回ふなばしミュージックストリート		
主催者	ふなばしミュージックストリート実行委員会/船橋市/船橋市教育委員会(文化課)		
開催経緯等	20年余り続いてきた千人の音楽祭が、小中学生を中心としたプログラムに主軸をシフトしてきた流れの中で、成人団体がより活躍できる新たなイベントを望む声が多く聞かれるようになった。こうした声を背景に、平成26年度にポップスやロック、ワールドミュージックなど、垣根のない幅広い音楽を楽しめる市民参加イベントとして、「音楽でまちを元気に！」をスローガンに、ふなばし音楽フェスティバルの新たな事業として発足した。		
事業趣旨(目的)	「音楽でまちを元気に！」をテーマに、市民が音楽に触れる機会を提供するとともに、街の賑いの創出に貢献する。		
第2次基本方針における事業の位置付け 3段階評価	気づき始まる	1	該当施策(選択) 基本目標Ⅱ 学び楽しむ施策② 文化・芸術の本質を尊重しつつ、時代の要請に対応した事業の展開
	学び楽しむ	3	
	育みつながる	1	
	活かし伝える	1	
参考指標	満足度	指標値	90パーセント
指標値設定の理由	前年度実績より		
事業内容	<p>・事業概要 令和4年度は、屋外4会場でのライブパフォーマンス、2日目は屋内会場で弾き語りコンテストを実施したが、令和5年度は開催期間を1週間の開催とし、10月16日から20日までの平日夜の飲食店にミュージシャンを派遣する①「バックストリートミュージック」、21日、22日の週末は2日通して屋外4会場での②「ライブパフォーマンス」、それに加え22日には屋内2会場で③「学生バンドコンテスト」「弾き語りコンテスト」を実施する。</p> <p>・開催・会期日時 ①令和5年10月16日(月)～令和5年10月20日(金)16:00～22:00 ②令和5年10月21日(土)11:00～17:00 ③令和5年10月22日(日)11:00～17:00</p> <p>・場所 ①市内飲食店 ②天沼弁天池公園、船橋駅北口おまつり広場、東武百貨店船橋店屋上、フェイスビル連絡デッキ(ライブパフォーマンス) ③①に加えて市民文化創造館(弾き語りコンテスト)、市民文化ホール(学生バンドコンテスト)</p>		
(令和3年度実績を受けて)協議会からの助言・提案等	<p>「音楽のまち ふなばし」を体現する文化事業として浸透してきたと思われる。町の賑わいの創出にもなるため引き続き盛り上げてほしい。</p> <p>開催日が1日だけだと台風等の影響で事業全体が中止となってしまう懸念があるので、数日から一週間程度の期間で開催した方が良いのではないかと。</p> <p>実行委員がコロナ禍でのノウハウを蓄積し、企画運営力が向上したことが一番の実績。このやり方をアフターコロナにおいてもプラスの実績としてノウハウを蓄積できれば素晴らしく、実行委員会で市民が主体的に動く形を支援することが継続に繋がる。</p> <p>コロナを機にオンライン動画配信が定着し、市内外に発信できることは大きな成果。幅広いジャンルの音楽を幅広い場で有観客とオンラインを併用したハイブリッド方式で開催するなど多様な取り組みを通して得たものを活かして出演者と参加者の更なる広がりを生んでほしい。</p> <p>参加者と今後の表現活動と行政によるバックアップの「在り方」について意見交換の場を持つことで、より現実的かつ効果的な方法が見えてくるのではないかと。</p>		
協議会からの助言提案等を受けてのコメント	<p>開催期間については、飲食店等でのバックストリートミュージックを5日間、屋外4会場での開催を2日間へ拡大するなど、1週間を通して「音楽のまち ふなばし」を体現する。新たな取り組みとして実施する「学生バンドコンテスト」においては、学生が主体的に動き、実行委員とともに作り上げるコンテンツを目指す。</p> <p>また、コロナ禍における多様な取り組みの中で得られた経験を活かし、動画等を活用したPRに力を入れていきたい。</p> <p>実施後には、アンケート等を参考に、今後の本イベントの在り方についても実行委員会で検討を続けていく。</p>		
予算額	市予算(実行委員会交付金)		3,000,000円
	国・県等補助等(名称:文化芸術創造拠点形成事業補助金)		3,000,000円
	協賛・他県等負担金		100,000円
	その他(入場料収入等)		1,031,000円
	計		7,131,000円



# 事業概要

事業No.	10			
年度	令和5年度		担当課 文化課	
事業名称	第31回音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭			
主催者	千人の音楽祭実行委員会/船橋市/船橋市教育委員会(文化課)			
開催経緯等	平成6年1月30日、市内の音楽団体、小中学校が中心となり、船橋アリーナの落成記念事業として出演者800名、観客2,000名で始まる。 翌年から実行委員会を立ち上げ、市内の音楽関係者が創意工夫をし、企画・運営を担っている。邦楽団体、合唱団体、高校生などを参加者も広がり、市民がより多く参加できるよう企画を検討している。 第4回開催から「ふなばし音楽フェスティバル」事業として実施しており、音楽のまち・船橋を代表する事業として、市民と共に作り上げる音楽祭として定着している。			
事業趣旨 (目的)	市内の音楽団体が一堂に会し、世代やジャンルを超えた交流をすることで、音楽文化の振興を図る。また、子供たちの未来につながる音楽祭として、事業を通じて音楽のまち・ふなばしにふさわしい音楽環境の整備に寄与していく。			
第2次基本方針における事業の位置付け 3段階評価	気づき始まる	1	該当施策 (選択)	基本目標Ⅲ育みつながる施策① 子供が文化・芸術に親しみ、心豊かに成長するための取組の充実
	学び楽しむ	2		
	育みつながる	3		
	活かし伝える	2		
参考指標	参加者の満足度	指標値	95%	
指標値設定の理由	来場者にアンケートを行い、満足度を調査する。			
事業内容	千葉県誕生150周年記念事業の申請を行い、千葉県の立地を生かした新たな取り組みを盛り込んだ事業計画のもと、補助金を活用した事業の実施を実行委員会で検討する。「子どもたちの未来につながる音楽祭」に相応しい音楽祭となるよう、船橋市民に生の音楽の素晴らしさを改めて伝えるイベントを目指す。 ・開催日時 令和6年2月4日(日)午後2時00分開演～ ・場所 船橋アリーナ			
(令和3年度実績を受けて)協議会からの助言・提案等	「音楽のまち・ふなばし」を象徴する船橋市が誇れる事業で、市民の要望に応える開催のあり方について吟味され、コロナ禍で現地開催が難しい中、動画配信を行うなど工夫されており、今後も発展・継続されることを望む。 YouTubeでのアーカイブ配信は視聴者を増やすための大きな進歩であるため配信期間を伸ばすことはできないか検討してほしい。 コロナ禍で現地開催が3年も行えていない現状は、小中高生たちが次に行う時に経験者がいないということ。様々なことがスムーズにできなくなってしまうことを考慮に入れつつも、コロナ禍での現状を新たな実施方法見出す絶好の機会と捉え、課題の整理と改善方法の検討に励んでほしい。 おやじロック(ジャズ)等の要素を加えてみてはどうか。			
協議会からの助言提案等を受けてのコメント	令和4年度は新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインに沿い、参加者や団体数を絞っての現地開催となったが、今年度はコロナ前の参加者数を目標して開催したい。 市内の音楽団体等が一堂に会し、世代やジャンルを超えた交流をすることで音楽文化の振興を図るなど重要な事業であることから、今後も本事業を安定的に実施していくため、実施方法を見直しつつ音楽イベントとしてさらに成長していくよう実行委員会で取り組む。			
予算額	市予算	7,000,000円		
	国・県等補助等(千葉県誕生150周年記念事業補助金)	6,000,000円		
	協賛・他県等負担金	0円		
	その他(銀行利息等)	0円		
	計	13,000,000円		